
魔王防戦記

ケンカ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔王防戦記

【Nコード】

N0670F

【作者名】

ケンカ

【あらすじ】

少年カインはラドクリフ国で一番の強者だった。強い相手と戦いたい・・・そんな風に思っていた、ある夜幼なじみの少女に誘われて願いが叶うという天文台に登った。

第1話 始まりの流れ星

この国の名前はラドクリフ。昼間は、貿易が盛んな国としてたくさんの人々で賑わっている。

夜になると、この国で一番高い天文台から綺麗な星空が見渡せる。ラドクリフには不思議な言い伝えがある。

13日の金曜日、ラドクリフで一番高い天文台から流れ星をみると、願いが一つだけ叶うというものだ。

だが、13日の金曜日に流れ星が流れたことは過去に一度もなく、この言い伝えはすでに人々から忘れられていた。

そして、今日は13日の金曜日。はたして、天文台に登って流れ星を探している人はいるのだろうか？

第1話 始まりの流れ星

「あゝ綺麗な星空だね・・・ねえ？カイン？」

銀色のシヨートヘアを持つ少女が天文台から身を乗り出して星空を眺めていた。

「・・・そうだな。」

少女の隣で壁に寄りかかって座っていた少年は目を閉じたまま軽く返事をした。

「相変わらず、つれない返答だね？なんか、もっとこうパーっとし

た華華しい返事できないかな？」

「うるさいな、こっちは毎日依頼が来て疲れてるんだよ」

少女は納得したという顔で少年を見下ろしていた。

「モアさんのギルドに入ったんだっけ？どう、やりがいあるの？今の仕事は？」

「……いや」

少年は面倒くさそうに目をつむったまま返事をした。

「そっか……無理ないよね？カインはこの国で一番強いんだから」

「

「ああ……この辺りじゃもう自分の力を極めることは出来ないな」

少年はようやく目をあけた。彼の目の色は透き通った青色だった。

「あ、流れ星……」

空を見渡すと無数の白い流れ星が、黒い夜空を流れ始めていた。

「カイン、立って！流れ星だよ！！今、ここで願い事を心の中で念じればその願い事が叶うんだよ！？」

何回も少女に肩を叩かれた少年は重い腰をあげて彼女の隣に立った。

少女は両手を組み、目を瞑って何かを呟いていた。

そんな少女をみて、少年も黒と白がいりまじった空を見上げて、願い事を呟いた。

退屈な毎日から解放されたい。俺にしか倒せないような、強い相手が欲しい……

「私はもう、願い事したよ。カインは？」

満足そうな表情で少女は隣に立っている少年に聞いた。

「願い事が……叶うなら……」

少年は独り言のように呟いた。その言葉は少女には聞き取れなかった。

「えっ？」

「いや、なんでもない。それより俺明日も早いんだ。そろそろ降りないか？」

「あっ！そうか！ごめんね、今日は付き合わせちゃって。ありがとう、楽しかったよ？」

この夜カインという少年が念じた願い事が後々大変なことになるとはこの国の人も、当の本人たちもまだ知らなかった。

第2話 モア・ギルド

無数の流れ星が流れた夜空は時間が経つにつれ、薄明るくなり、静けさを破るように数匹の小鳥が鳴いた。

「もう、こんな時間か・・・」

カインは目を覚ますと、すぐに身支度をして、誰もいない我が家を出てある場所に向かった。

ラドクリフ国に数十件あるギルドでもっとも、依頼を確実にこなしている

「モア・ギルド」だ。

「モア・ギルド」では早朝のラドクリフ国全域の見回りから1日が始まる。

見回りが始まるのは午前5時。よってモア・ギルドの人々は4時30分にはギルドに到着していなければならない。

第2話 モア・ギルド

「おはようございます。」

カインが、ギルドの入口のドアを開けてそっけない挨拶をすると、ギルドの中には既に五人の人がそれぞれの仕事をしていた。

「あら、おはようカイン！」

入口の手前でテーブルを拭いていた、ピンク髪の顔立ちの整った女性が、カインを見て、にっこりと微笑んだ。

この女性が

「モア・ギルド」リーダーのモア。通称
「蛭」

彼女の剣から繰り出される技が光のようにまばゆいため、ついた名前が

「蛭」だ。

「今日も1日しっかりと働いてもらうからね。覚悟しときなさいよ？」

「……………」

「まあまあ、そんなに固くなるな、新米！冗談に決まってるだろ？軽い冗談！」

気がつくとかインの背後には少し太っているが大柄で、がたいの良い男が立っていた。

彼の名前はマック。

通称

「剛腕」。

武器を持たずにその腕っ節の強さだけで、岩をも砕く力の強さから付けられた名前が

「剛腕だ」。

「そうだよカイン」

「そうよカイン」

また、今度は上から声をかけられた。

カインが上を見ると、二人・・・少女と少年がさかさまに柱にぶらさがっていた。

「だいたい、モアが大きな声をだす時は冗談を言う時って決まってるんだから・・・」

そういうと少女の方がシュタツという音をたててカインの目の前で着地した。

「本気にしちゃ駄目よ？」

彼女の名前はホーク。

通称

「瞬神」

その顔には似合わない戦いになると冷酷さを持ち、例え相手が人間であろうと持ち前のスピードで瞬殺してしまうことかな名付けられた名前だ。

そして、相変わらず柱にぶら下がっているのが、ホークの兄、バス。通称

「岩蟹」

どんな、攻撃をも無としてしまう最強の盾を持っていることから名付けられた名前だ。

「こうやってると、なんか嫌な事全部忘れるんだよねー。」

「なんだ、能天気なお前にも悩みはあるのか、岩蟹？」

そして、最後の一人、離れた所で何かを作っているのが、ナユ。通称「毒蛇」

毒の調合を専門にしている、彼の作る毒液は史上最強とまで言われるほどの物だ。

「ナユ！」

言い過ぎだというような顔でマツクが睨んだ。

「ああ？悪かった、悪かった！言い過ぎだ。」

そう言って、ナユは奥の部屋へと姿を消した。

「でも、これで六人みんなそろったみたいね。じゃあ今日のメインギルドを発表するわ」

こうして、カイン達の1日が始まるとしていた。平凡で退屈なはずの1日だ。

第3話 屈託のない毎日

「じゃあ、見回りに出発しましょうか？」

「っとその前に・・・」

モアは何かを思い出したという感じで、手をポンっ叩いた。

「カインとナユは二人で行動して？何故かは分かってるわよね・・・
ナユ？」

「あー、はい、はい。わかりましたよ隊長。」

「カイン、あなたはナユの言うことをよく聞くこと。わかった？」

「はい・・・」

「まあ、せいぜい俺の足を引っ張らないように、しっかり働いてくれよ？新米。」

ナユはカインを挑発的な目で見つめた。

「わかりました、先輩」

あっさりと返答されたナユは軽く舌打ちして、一人で先に外へ出て行った。

「まあ、気にすんなや。アイツは毒舌だが、実力だけは確かだぜ？」
マックが軽くカインの肩を叩いた。本人は軽くのもりなのだろうが、やられている側としては相当痛い。

カインとナユは町外れの森に来ていた。この森にはたくさんの魔獣が住んでいるため、人々は怖がって近づかないことから、不入らずの森と呼ばれていた。

「よし、じゃあ見回りを始めるか。新米、お前は3時の方向に回れ、俺は9時の方向に回る。森の中でお互いが出会ったら、見回り終了だ。途中、魔獣が出てきたら躊躇いなく殺せ」

ナユの指示にカインは少し感心した。ただ毒舌なだけかと思っていたのに、的確な指示を出したからだ。

「・・・？なんだ人の顔をジロジロと見て・・・」

「いや、なんでもありません。じゃあ俺は先に・・・」

そういうとカインはナユを残して一人先に森に入った。

「何だ？あいつ？」

ちよっとビックリした様子でナユもカインとは逆方向から森に入った。

3時の方向から森に入ったカインはわずか十分足らずで森の中間地点の目印となる白い像の立った泉まで来ていた。

カインは白い像の前で立ち止まった。片手に斧、片手に盾を持ち、動きにくそうな重装備を身に纏った女性の像。ラドクリフでは、「戦いの女神エイドス」と呼ばれて、市民から慕われていた。

「こんな、弱い相手しかいない、平和な町じゃその英名も廃れてしまっぜ？女神様。」

カインは、何も起らない毎日飽々していた。だから、ラドクリフで一番評判のいいモア・ギルドに入った。しかし、実際には見回りだ、奉仕活動だと、まったくやり応えのない仕事ばかりだった。

「何でこんなところに生まれてきたのかなあ」

カインは青く広がる空を見上げて、深くため息をついた。

そんな風に思っただけ空を見上げていたカインはあることに気がついた。最初はただの黒い点だった何かが確実にゆっくりとカインの方に近づいてくることに。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0670f/>

魔王防戦記

2010年10月12日07時04分発行